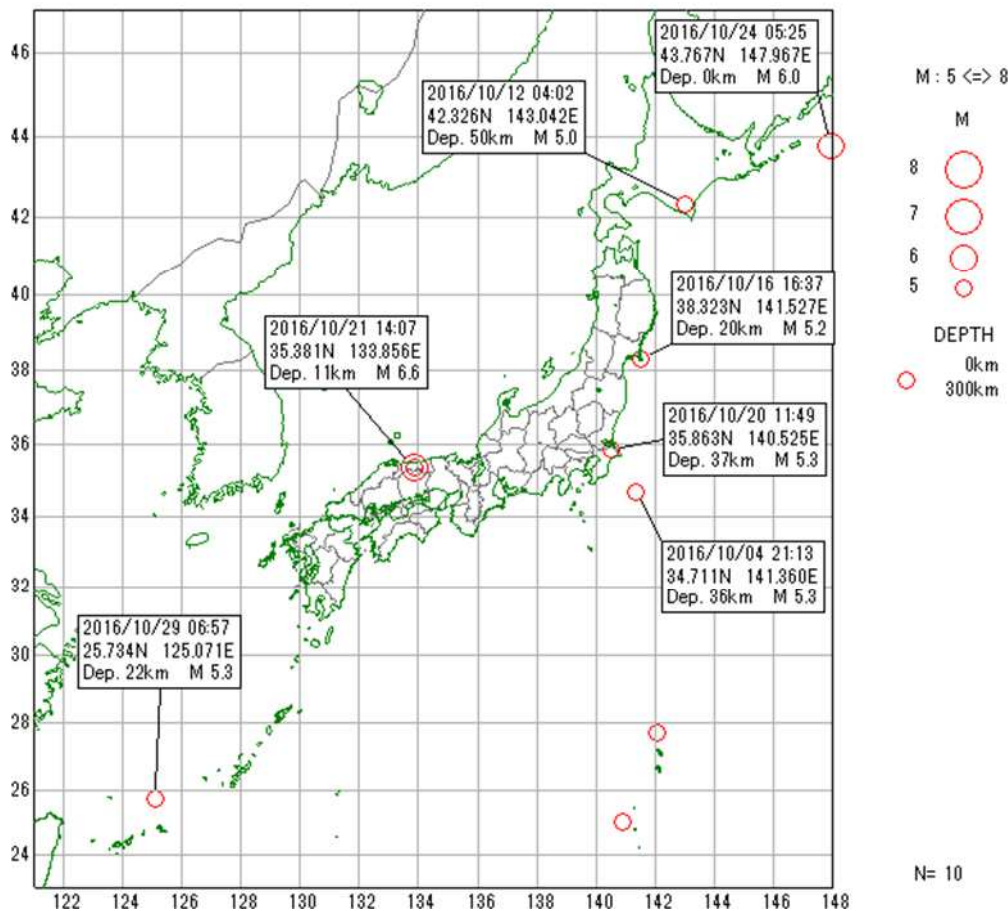


**2016年10月の地震活動概観**

10月の最大の地震は21日に発生した鳥取県中部の地震（気象庁暫定マグニチュード6.6）でした。下の図は10月に日本周辺で発生したマグニチュード5以上の地震をすべて図示したものです。全部で10個発生しました。ちなみに9月は17個、8月は13個発生していました。

房総沖の地震活動は順調に減衰しており、現時点で9月23日のM=6.7より大きな地震が房総半島のはるか沖合で発生する可能性はかなり低くなったと考えられます。但し房総半島のすぐ近くでM6クラスの地震が発生する可能性は依然残っています。

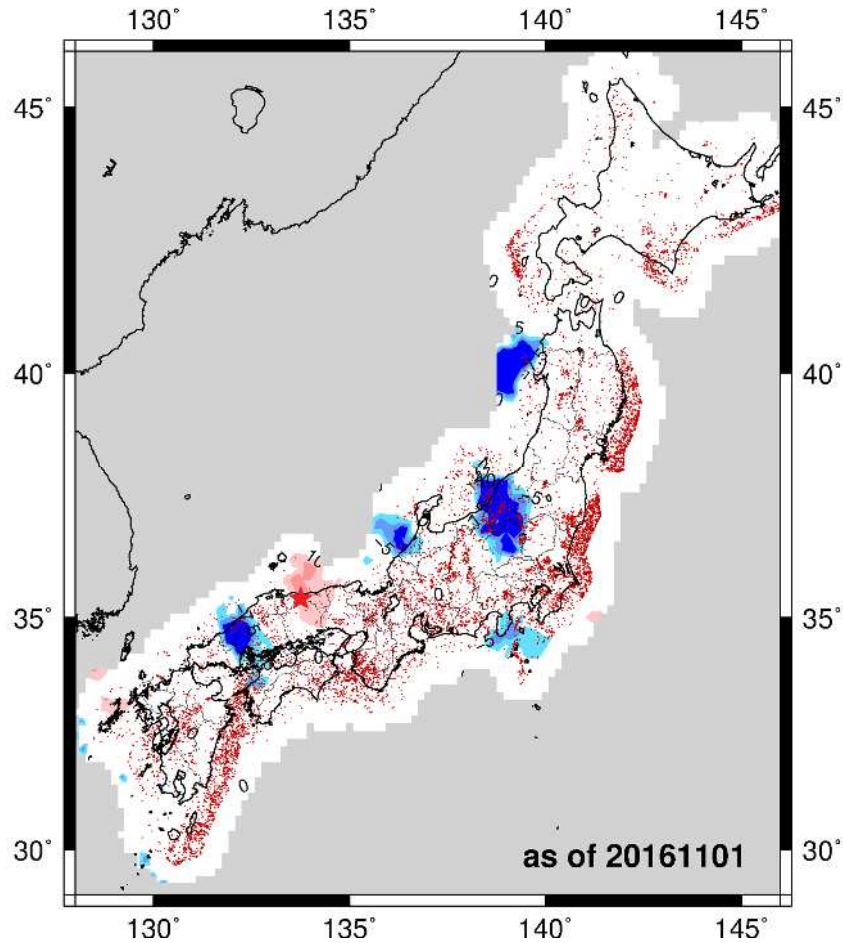
2016 10/1 9:0 -- 2016 10/31 23:59

**日本列島陸域にターゲットを絞った解析**

次のページの図は11月1日時点の日本列島陸域の地下天気図®です。10月21日の鳥取県中部の地震を赤い☆印で示してあります。これまでも何度も繰り返し述べていますが、地下天気図解析では青い異常（地震活動静穏化の異常）が消えてから、さらに異常の（中心ではなく）周辺部で地震が発生するケースが経験的に多い事が知られていました。その意味では中国地方にはまだ異常領域が残っており、鳥取県中部の地震で終了とは言えないと考えています。ちなみに現在一番目立つ異常は新潟県およびその周辺にかなり顕著な静穏化の異常が見られる事です。今後の推移を見守る必要があります。



11月1日時点の地下天気図



今回は2015年4月から2016年11月までの上記の地下天気図®のアニメーションを作ってみました。期間中に発生したマグニチュード6以上の地震も赤の☆印で示してあります。青い静穏化の異常が消えた後にその周辺で地震が発生している様子が見てとれます。

<http://www.sems-tokaiuniv.jp/aaa/japanland201611.gif>

もしうまく動画が動かない場合はブラウザのソフトを変えてトライしてみてください。

鳥取県中部の地震に関する考察

右の地下天気図は中国・四国地方の静穏化が最大であった時期のもので、今年の7月に異常が最大となり、それから静穏化異常の中心が西側へ移動し、かなり異常(青い領域)が小さくなった所で10月21日の地震が発生しました。

